

第 1 回地域の教育を考えるワークショップのまとめ

- 1. 第 1 回ワークショップの概要 1
- 2. 第 1 回ワークショップの主なご意見 2

1. 第1回ワークショップの概要

開催日時

【新川学区】 5月27日（月）14時～16時：新川文化ホール

【富山学区】 6月 3日（月）14時～16時：富山県民会館

【高岡学区】 5月30日（木）14時～16時：高岡文化ホール

【砺波学区】 5月29日（水）14時～16時：砺波市文化会館

テーマ

グループワーク① 「提言」及び「県立高校の目指す姿」について

グループワーク② それぞれの学区の目指す姿について



2. 第1回ワークショップの主なご意見

テーマ：「提言」及び「県立高校の目指す姿」について（全学区のワークショップより）

項目	ご意見の概要
提言	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある高校づくりが「主」で、その結果としての再編統合は「従」である。その目的と手段を逆にするとおかしなことになる。 ・「学びたい学んでよかった」という視点はよい。子どもが何を学びたいのか。生徒が学びたいと思えるような学科、学習内容、活動があるとよい。そのためには、生徒が何を考えているかを反映できるとよい。 ・提言は、現実的で実効性がある。学科と学校規模をかけ算しながら、その価値や、学校を高めていこうという発想だと思う。 ・大きく軸を分けてある（学科構成と学校規模）というのが面白い観点であった。 ・「学びの質の向上」という視点において、学習活動、部活動、職業教育などそれぞれに特化した学校があるとよい。 ・提言や目指す姿に目新しさは感じない。人間性育成にも適った小規模校はなぜだめなのか。 ・提言の内容は、小中高に共通の内容になっている。富山県として特色ある高校をつくるならば、もっと富山県としての特色ある部分が必要。 ・提言にあるように、基本的には「その高校で何を学べるようにするのか」、「富山県として、どのような人材を育成したいのか」を考えていくべき。 ・子どもたちに多様な選択肢を提供することは大切で、様々な学科を備えた一定規模の高校が必要。 ・提言に子ども中心の視点に立ち、幅広い選択肢を確保するとあるが、中学校卒業段階で選択できない生徒もいる。入学後に学科の変更ができるなどの仕組みがあるとよい。 ・昔は、学校の特色よりも偏差値や家からの距離で進学先を選んでいった。県内私立高校や県外の高校に進学する生徒も増えているので、提言に、「生徒の幅広い選択肢の確保」とあるのはよい。 ・提言はまとまっていて分かりやすい。それを受けて各高校は魅力をどう伝えていくか、中学校側は情報をどう受けていくかが課題。 ・人口減少の中、現状維持は難しい。思い切った方向に舵を切ることも教育には必要。

(全学区のワークショップより)

項目	分類	ご意見の概要
目指す姿	連携	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する子どもたちの学びにどうやって学校は対応していくのか、教員だけでは負担が大きいので、民間や企業が学校をサポートしていただければよい。 ・中高の連携が盛んになるとよい。中学生が高校の授業を見ることで、やってみたいと思う機会になる。また、高校の教員が中学校の授業を見ることで現状を把握することができる。
	進路選択	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科に進学してくる生徒は夢がはっきりと決まっていない。進路が定まっていない子どもにも対応できる学校であることが必要。 ・普通科に何気なく進学している生徒にこそ、入学後にいろいろなコースを選択できるようにすることも必要。 ・生徒たちに多様な学科を用意し、括り募集で入学後に選択の機会を提供できれば、わくわく感を高めることにつながる。
	特色	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の議論の中に部活動が取り上げられていない。進路選択の理由の中に「部活動」を挙げる子どもが多い。看板となる部活動を設置した高校を各地域に配置し、集積してもよいのではないか。 ・学力で高校を選ぶ中学生が減っているというアンケート結果もある。以前より学力以外の魅力で選ぶようになってきた。その魅力を考えていく必要がある。 ・授業の方法も変わってきている中、点数に表すことができない非認知能力をどう評価するかという課題もある。点数で輪切りにするのではなく、それぞれの子どもの能力を評価できる入学者選抜の方法があるとよい。それが魅力ある高校づくりにもつながる。
	配置	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の志向・動向を分析し、既存の学校を念頭に置かず、ゼロベースで望ましいあり方を検討すべき。 ・幅広い学びの選択肢を確保するために中～大規模が必要で再編は避けられない。 ・今 13 市町に高校はあるが、地域とのつながりもあるので、再編統合でどこを再編するかという話になると思うが、是非すべての 13 市町に高校は残してもらいたい。 ・提言には、「各学区に配置することが望ましい」とあるが、様々なところに高校があり教員配置を薄めるのではなく、子どもが移動するところにコストをかけるべき。予算、人材、時間の使い方を無駄なく検討してほしい。

テーマ：新川学区の目指す姿について

分類	ご意見の概要
特色	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や企業と協働した教育ができる素地がある。 ・地域の人と一緒に学校づくりをしている印象。特に職業科で感じる。 ・一部の地域では、富山学区への流出が問題となっている。新川学区だけで考えていくのは難しい。 ・高校がバランスよく配置されている。いろいろなところに公共交通機関を使って通学できることが新川学区の魅力の一つ。一か所に集まりすぎていると電車に乗る機会がなく、新たな出会いもない。 ・コンパクトな範囲に、歴史のある博物館や県外にはない博物館、高等教育機関、企業などがたくさんある。地域や企業など産官学の繋がりは大切であり、それが実現しやすい環境にある。 ・強みは農業だが、子ども達を地元に残らせることを考えるか、世界に出ていくことを考えるか。 ・就職先は新川なのか。富山や日本、世界と選択肢はある。新川で完結させると狭い。 ・農業もあるし、最先端だけではない、深い学びをできる環境がある。AI と対極にある、深い学びを提供できる可能性がある。最先端に飛びつくだけではなく、基礎的な学びを大切にしたい。
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模な総合職業高校で1年～2年は共通に学び、3年になって選択するような考え方に立てば、その中に普通科があってもよい。 ・高校は、広い交流が必要。いろいろな人と出会える学校が必要。普通科だけでなく、職業科の生徒とも交流できる学校もよい。 ・他県の孤島の高校に比べ、富山県は泊駅から富山駅まで電車で50分で通学できる環境にある。そう考えると、この地域に普通科高校が1校あり、幅広い生徒がいるようにすると入学試験も楽になるのではないかと。幅広い生徒の中で、どういう努力をしてどこに行くかという発想もある。 ・偏差値偏重ではなく、もっと幅広い学校をつくるのも一つの考え方。入学後に色々な選択肢から選んでいく制度もよい。 ・工業高校はもっと企業と連携すべき。新川学区にある企業は地元意識も強い。他県では、企業の方から指導を受けることができる工業高校がある。企業と連携して授業を行うことで、先生の働き方改革にもなる。 ・地域に根差した学科を置くということについては、職業科の内容も昔と変わってきている。職業科の生徒は、卒業後、地域で働いている。将来への道が見える化されている高校が大事。職業と直結する高校があるとよい。

テーマ：富山学区の目指す姿について

分類	ご意見の概要
特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県庁所在地であるため、他学区にはないものがある充実した学区である。 ・ 公共交通機関が整備されており、東西南北どこへでも移動しやすい。その結節点が富山駅であるため、その環境を利用できるとよい。 ・ 私立高校を含め、様々な校種がある。その中で、私立高校に魅力を感じている生徒が増えている。 ・ 進学校、即戦力となる人材を育てる職業科、総合学科などバランスよく配置されている。 ・ 普通科が多く配置されているが、保護者からの進学への期待が大きく、学校ごとの特色がない。進学実績ではなく、それぞれの魅力づくりが必要。 ・ 学区として高校を見る視点がなかった。一般的な市民の感覚としては特徴と言われてもよくわからない。
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他校の授業を受けることができるシステムや、探究活動での様々な職業科間の連携があるとよい。 ・ 企業と学校の求める人材像のすり合わせができていない。経済界と現場の先生方との交流がもっともっと必要。 ・ 公共交通機関の整備状況なども踏まえ、富山学区にある程度の選択肢を用意し、他学区には富山学区にない選択肢を用意するのがよい。少子化の中、学区間の平等性を確保することは難しい。 ・ 人口が多く、交通の便もよいので国際バカロレア認定校や中高一貫教育校もつくることのできる。こんな学校があればよいが人を集めにくいといった高校を中心部につくればよい。 ・ 今後、学校数を減らしていかなくてはならないのであれば、学習活動、部活動、職業教育などに専門特化したものを富山市に集め、好きなことにそれぞれのペースで取り組むことができる学校を他学区に配置するなど学区によって分けていく方法もある。 ・ オンラインを使って他校と連携し探究活動を行えるとよい。しかし、対面とオンラインを捌くのは現実的に難しい。サポート支援員がいてくれたらもっと充実する。 ・ 企業として、高校生に求める「専門的な知識」はどの水準なのか。学科改編が起こり、融合的になったときに、専門性が薄まる可能性があるのではないか。高校と企業とのつながりの観点でも検討が必要。 ・ 職業科の名前が古い。 ・ 募集定員に満たない学科、私学への専願者の増加など、PRの見直しが必要。中高の連携によって、魅力を発信できる。

テーマ：高岡学区の目指す姿について

分類	ご意見の概要
特色	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と深くかかわる農業、漁業等の学科、デザインや工芸などの学科がある。こうした一つのことに思い切り取り組むことができる学科はよい。 ・地域性といっても、他県に比べてはっきりとあるのかよくわからない。 ・3市だけのコンパクトな高岡学区は、ある程度の公共交通機関もあり、地理的にどの学校にも行きやすくなっている。つまりは、どこにでも行けるからどこにでも行こうとする流出につながっている。 ・城端線・氷見線沿いに多数の高校があり、一つの駅でいろいろな学校の生徒が一緒になったり、街中を通学しているところがよい。 ・高岡学区と砺波学区を合わせた姿が、歴史的にも文化的にも理にかなった姿。十字に鉄道でつながっている地域性がある。通学条件が適うなら、高岡学区と砺波学区を区別する意味はなくなってくる。
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自然条件を生かした特色ある学科や文化・産業を生かした多種多様な学科があり、伝統がある。これを今後も生かしていくために、地域連携を進めるべき。 ・偏差値一辺倒ではなく、ユニークな人、夢のある人、自分のやりたいことをしている人、こういった人を確立できる人材育成が指針になる。 ・自分の知っている仕事の中から就きたい仕事を考え、大学に進学する職業観に基づく生徒もいるが、職業観に基づかない生徒のためにも、普段からキャリア教育やそういった働きかけをしていくことが大事。 ・中学校段階で進路が決まっていない生徒は職業科を選択しないので、普通科でも、途中から農業のことを学ぶことができる総合学科的なものがあってもよい。 ・親として高校への通いやすさを求めるが、子どもたちは制服がかわいい、食堂があるといったことを求めているようだ。食堂を再開したり、大学並みに充実したりした方が特色としてわかりやすい。 ・提言に多様な選択肢とあるが、子どもが減っていく中では限界があるだろう。専門的な学科がなくても、子ども達が学びたい、興味があるといったことを教員や親がICT等も活用して、サポートできる雰囲気があるとよい。 ・生徒・保護者に見える化されていないので、今ある普通科コースをどう情報発信していくか考える必要がある。

テーマ：砺波学区の目指す姿について

分類	ご意見の概要
特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然条件こそが魅力の1つ。農業科の人気があり、農業で移住してきている人もいる。 ・ 自然だけではなく、企業など1次、2次、3次産業がバランスよくあるのが特徴だと考えている。学科はバランスよく配置されている一方、交通面で不便さがある。土日の部活動のことを考えると、親ばかり頼れない。 ・ 少ない学校数ではあるものの、学科が幅広く設置されており特色としては結構ある。 ・ アクセスの良さから、金沢市の私立高校に進学する中学生が増えている。 ・ 小中高で連携しており、今後も生徒たちや先生方の交流を通して高校の魅力を生徒たちに伝えていける。
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的が決まった人にフォーカスされた意見が多かったが、実際は大半がなんとなく大人になって働いていてという人たちだろう。いろいろなことが見えるようにすることが一番大事なのではないか。 ・ 中高一貫という形ではなく、中で繋がっていればよい。教員が現場を見て、知って、刺激を得ていくことで、「保守的な富山県が変わった」と言われるのではないか。 ・ 石川高専に進学する生徒もいる。中学時代から目的を持って進学を考えている生徒のために、県立大学と連携して、人材育成をするコースがあっても良いのではないか。 ・ 学校数が少なく、地域もコンパクトだから繋がりが強い。教員同士の繋がりが、高校生と中学生の繋がりが、地域との繋がりが。子どもたちが本当に心から地元の良さを知ることによって安心感があれば、中高間の壁がなくなっていく。こうした活動を地道に浸透させていくしかない。 ・ 砺波学区という括りだけでなく、せめて砺波、高岡学区の範囲で、県外へ流出しない、県外からも生徒を呼べるような高校のあり方を考えることが大事。 ・ 小学校5年生の時点で、県内県立高校が選ばれない状況が現実にあるので、中学校選択の時点で各自治体に考えてもらいたい部分もある。 ・ 特色ある高校を富山市ばかりに集めずに県内に分散させる。 ・ 一定の中学校出身者が多い状況ではなく、様々な中学校から通うことができるようになるとよい。